

## 特別寄稿—新名誉会員として—

### 「血管外科の進歩とともに歩んで—名誉会員に推挙いただいて—」

自治医科大学名誉教授，練馬光が丘病院循環器センター長 安達秀雄

このたび，日本血管外科学会の名誉会員に推挙いただいたことに心から感謝いたします。名誉会員は「血管外科領域の発展進歩に特に功績のあったもの」とされていますので，大変に名誉あることです。

私は1978年に大学卒業後，ただちに三井記念病院外科に入職し，6年間の一般消化器外科，心臓血管外科の修練を受けました。当時はシールドされた人工血管はなく，人工心肺を使用した胸部大動脈瘤手術では，人工血管からの出血が止まらずに苦労しました。ヘパリンを大量に使用していること，体外循環により血小板が減少していること，凝固機能が著しく低下していること，そのため，ポリエステルで編んだ人工血管からの出血が止まらず，止血のために人工血管をガーゼで数時間圧迫することなどが必要でした。



私は三井記念病院での修練終了後，埼玉医科大学第一外科に移動し，尾本良三教授（故人）のもとで診療，研究，教育に打ち込んでいました。わが国ではじめてシールドされた人工血管が広く市販されたのは1980年代の後半でした。ゼラチンを用いたシールドグラフトで，その後急速に臨床に普及しました。私は幸運なことに，埼玉医大でこのシールドグラフトの治験メンバーに加わることができ，雑誌「人工臓器」に治験結果の論文を発表しました<sup>1)</sup>。臨床応用されたシールドグラフトの有効性はめざましく，大動脈瘤手術の成績向上に大きな役割を果たしました。

大動脈外科の治療成績の向上には，診断技術の進歩も大きな役割を果たしました。埼玉医大では尾本教授，高本眞一講師（現三井記念病院院長），許俊鋭講師（現健康長寿医療センター長）がカラードプラ法の開発，臨床応用に精力的に取り組み，大きな成果を挙げていました。現在では，カラードプラ法は循環器診療において不可欠の診断技術となっています。私は埼玉医大での7年間の濃密な教育，研究，診療経験の後，自治医科大学に移り，CTによる心臓血管疾患の三次元診断に取り組みました。これには放射線科の永井純教授（故人），小林泰之助手（現聖マリアンナ医科大学教授）そして東芝技術陣との良好なコラボレーションが重要でした。その成果が『三次元CT血管造影法』というテキストブックとして結実し，刊行されました<sup>2)</sup>。

大動脈瘤手術の成績向上には，シールドグラフトの導入，カラードプラ法と三次元CT診断法の開発と臨床応用，そして体外循環技術の発展という三つの進歩が必要でした。私はこの30年間，これらの進歩にかかわることができ，多数の手術にも関与しました。外科医としては，まさに血管外科の進歩とともに歩んでいくことができ，大変に幸運でした。2010年には第38回日本血管外科学会学術総会をさいたま市で開催させていただき，多くの方々に参加していただきました。今後，血管外科学が益々発展していくことを確信しています。

1) 安達秀雄，他．ゼラチン処理人工血管の臨床使用経験．人工臓器 1989; **18**: 225.

2) 永井 純，安達秀雄編著．三次元CT血管造影法．東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル；1994.

## 総会報告

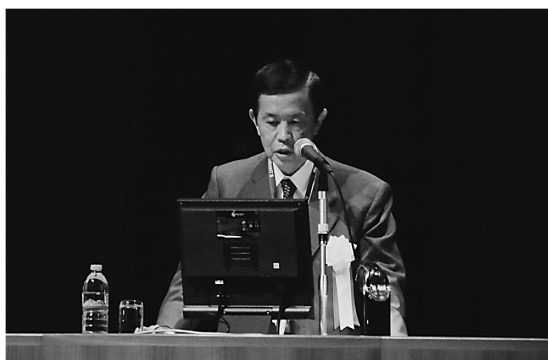
### 第45回日本血管外科学会学術総会を終えて

会長 広島大学大学院医歯薬保健学研究科外科学 末田泰二郎

2017年4月19日から21日の3日間、ANA クラウンプラザホテル及び広島国際会議場にて第45回日本血管外科学会学術総会を開催しました。例年より1か月早い開催ですが、広島は5月の連休が明けますと雨が降る日が増え蒸し暑くなってきます。4月は1年で一番気候の良い季節で早い時期の開催としました。翌週が日本外科学会というタイトな日程となりご迷惑をお掛けしました。

抄録集は廃止して会場に巡らせたWi-Fiで専用アプリを使って抄録を閲覧して頂きました。昨年の本会でのツイッターの使用による評価を気が付いてなく準備を忘れました。次年度会長からご検討頂ければと思います。総演題数は814題でシンポジウム、ビデオシンポジウムにご応募の皆様は幾人かは演題数の制限から一般口演、ポスターに回って頂きました。学術総会は広島国際会議場にすべて凝縮して行いましたので手狭感がありましたが、反面会場間の移動が簡単で大勢の参加者が一同に会し盛況さを感じました。有料、無料（名誉会員、学生など）を含む総参加者は1,900人で地方開催した本会としては盛況でした。外国からの招請者は13名でした。米国5名、ドイツ2名、フランス1名、中国4名、韓国1名でした。10名の御高名な血管外科医を米国（3名）、ドイツ（2名）、中国（4名）、韓国（1名）をお呼びしましたが、私の個人的なご縁で心臓外科が専門のフランスボルドー大学のLois Labrousse教授（私共の留学先）、小児心臓外科と再生血管研究が専門のオハイオ州立大学の岡利治教授（広島大学後輩）もお招きしました。特別講演は元ミスター赤ヘル、元広島カーブ監督、名球会理事長の山本浩二さんに球界の裏話と投手野手の基本を話してもらいました。2016年に広島カーブが25年振りにセ・リーグ優勝したのでタイムリーな講演だったと思います。昨年優勝した熱気が冷めやらぬ広島ではマツダ球場のチケットが売り出し直後にほぼ完売し、野球を楽しみに来られた皆様には残念なことをしました。

日本血管外科学会ではデバイスの進歩が著しく外科領域で今後の更なる成長が期待できる学会です。学会を助けてくれた教室スタッフ、血管外科学会事務局、学会運営会社の皆様に深甚なる感謝を申し上げ総会報告とします。



会長講演の様子

## ご挨拶

### 「第46回日本血管外科学会学術総会を山形市で開催します」

会長 山形大学医学部外科学第二講座 貞弘光章

第46回日本血管外科学会学術総会を2018年5月9日(水)から11日(金)までの3日間、山形市で開催させていただきます。5月の大型連休の翌週となりますが、新緑が目まぶしい風景の中に蔵王や月山の残雪が映える絶好の季節となります。

血管外科の最近の進歩には目を見張るものがあり、デバイスの開発と普及による血管内治療の増加がその牽引役となっています。それと併に症例数が著しく増加してきておりますが、症例数の増加には、これまで手術治療困難とされてきたハイリスク症例への適応拡大と、一方で、低侵襲で早期成績が良好な故のこれまでは適応には至らなかった早期段階での手術介入や予後改善を見込んだ積極的な適応拡大があると考えます。デバイス手術による低侵襲化治療は患者さんへ大きな恩恵を与え、また、それを希望する患者さんが増加していくことは、避けられない流れですが、デバイス留置に伴う新たな問題や逆に二期的に必要とされる open surgery も経験されるようになっているのも事実です。それらの適応拡大の現実を短期成績を論じるだけでなく中長期の手術成績と予後の改善を真摯に議論するのが学会の役割と考えます。



今回の学術総会のメインテーマは「Evidence-based Vascular Surgery」と、いたしました。デバイス進化などにより治療体系が大きく変化している現状と選択した治療戦略を、そのエビデンスを提示頂きながら検証していきたいと考えています。また、open surgery では手術手技や手術期管理の工夫により成績の向上にも著しいものがありますし、血管内治療の興隆時代でもその必要性和重要性になら揺らぐものではありません。学会の特別セッションには「～の治療戦略とエビデンス」という統一したテーマを基部から弓部、胸腹部、腹部大血管、大動脈解離、更に、重症下肢虚血、静脈疾患など各領域に設けエビデンスを求めた演題形式を考えています。また、今回の教育セミナーの主題は「TEVER, EVER」で、進化する血管内治療の know-how を学んで頂きます。更に、透析や糖尿病合併および遺伝性結合組織障害を有する血管病に対する治療戦略、open surgery の成績向上のための工夫、デバイス治療の進化と諸問題、デバイスの技術開発とレジストリー、脳や脊髄などの臓器灌流と臓器保護、また、血管外科チーム医療、女性血管外科医会など update なテーマを計画しておりますので、沢山の演題応募を期待しております。

山形には、芭蕉が「奥の細道」旅行で訪ねた山寺立石寺や最上川、山岳信仰の場である出羽三山など手つかずの神秘的な自然が残っています。また、ラーメンとこんにゃくの消費量、サクランボやラフランスの果物やワラビやタラの芽の山菜の収穫量が日本一の土地柄であり、蕎麦店が「蕎麦街道」と称して軒を連ね、芋煮、だだちゃ豆、米沢牛、山形牛、食用菊と豊富で多彩な食文化が楽しめます。学会の合間に山形の自然と食文化に触れて頂ければ幸いです。

地方都市での開催となりご不便をお掛けすることがあろうかと思いますが、山形市へのアクセスは、山形新幹線、山形空港の他、仙台市から高速バスが10分毎に約60分の所要時間で連絡しており比較的良好です。また、市内には十分なホテルと客室数があり、周囲には上山温泉や天童温泉、蔵王温泉の歴史ある温泉街が近接しております。

学会での熱い討論とともに山形の地を満喫していただける様、教職員一同、準備を進めておりますので、出来るだけ沢山の会員の皆様をご参加を心からお待ちしております。

# 第46回日本血管外科学会学術総会会告（第1次）

第46回日本血管外科学会学術総会を下記のとおり開催いたします。  
会員の皆様には多数のご応募、ご参加を御願ひ申し上げます。

第46回日本血管外科学会学術総会 会長 貞弘光章

記

- 会期：** 2018年5月9日（水）～11日（金）
- 会場：** 山形テルサ・山形国際ホテル
- 【山形テルサ】  
〒990-082 山形県山形市双葉町1-2-3  
TEL：023-646-6677  
<http://www.yamagataterrsa.or.jp>
- 【山形国際ホテル】  
〒990-0039 山形県山形市香澄町3-4-5  
TEL：023-633-1313  
<http://www.kokusaihotel.com>
- 会長：** 貞弘光章（山形大学医学部外科学第二講座）
- テーマ：** Evidence-based Vascular Surgery  
（山形の地で熱く語ろう血管外科の検証と新時代を）
- プログラム内容（予定）：**
- 第25回日本血管外科学会教育セミナー
  - 医療安全、新指導医、新専門医講習会
  - 国際シンポ（SVS Japan Chapter）
  - パネルディスカッション：「～の治療戦略とエビデンス」、「～を極める」
  - デバイス治療の進歩、新たな問題とその対応
  - 血管外科女性医師の会、血管外科チーム医療、など調整中



## ■事務局

第46回日本血管外科学会総会 事務局  
山形大学医学部外科学第二講座  
〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2  
TEL：023-628-5342 FAX：023-628-5345  
E-mail：46jsvs@convention.co.jp  
事務局長：内田徹郎（山形大学医学部外科学第二講座）  
総会ホームページ URL：  
<http://www2.convention.co.jp/46jsvs/>

## ■運営事務局

日本コンベンションサービス株式会社 東北支社  
〒980-0824 仙台市青葉区支倉町4-34  
丸金ビル6階  
TEL：022-722-1311 FAX：022-722-1178  
E-mail：46jsvs@convention.co.jp

# お知らせ

## ●医療安全委員会からのお知らせ

医療安全委員会委員長 椎谷紀彦

一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターより、医療事故の再発防止に向けた提言第1号「中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析—第1報—」が刊行されました。日本医療安全調査機構のホームページに掲載されておりますので、ぜひご一読ください。

<https://www.medsafe.or.jp/uploads/uploads/files/publication/teigen-01.pdf>

## ●血管内治療医制度委員会からのお知らせ

血管内治療医制度委員会委員長 石橋宏之

平成27年10月血管内治療医制度が一部改定されました。外科専門医であること、末梢動脈疾患に対する血管内治療が30例必要なことなどが必要要件に加わり、末梢動脈疾患に対する血管内治療を行う血管外科医のための制度に強化されました。昨年認可された浅大腿動脈バイアバーン実施基準においても、IVR 専門医、心血管インターベンション認定医と並ぶ必要資格の一つとして認定されました。本年認可予定のドラッグコーティングバルーンカテーテルでも、必要資格として認められる予定です。血管内治療を行う血管外科医は、是非取得して下さい。詳細はHPをご参照下さい。

[http://www.jsvs.org/ja/certified\\_physician/](http://www.jsvs.org/ja/certified_physician/)

## 日本血管外科学会雑誌 Vol. 26 (2017) Contents

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsvs/-char/ja/>

### No. 1

#### 総説

- 血管ベーチェット病とは何か？  
石橋 宏之（愛知医科大学血管外科） pp. 19-23
- 透析例の重症虚血肢に対するバイパス手術—日本の現状と近年の進歩—  
東 信良ほか（旭川医科大学外科学講座血管外科学分野） pp. 33-39

#### 講座

- 透析シャント造設法  
布川 雅雄（杏林大学心臓血管外科） pp. 13-18
- 高安動脈炎  
渡部 芳子（川崎医科大学生理学1） pp. 25-31
- 透析患者に対するワーファリン使用に関する諸問題有効性と危険性、Calciphylaxis、ワーファリン皮膚壊死、ワーファリン関連腎症  
長谷川 元（埼玉医科大学総合医療センター腎・高血圧内科・血液浄化療法部人工腎臓部） pp. 83-90

#### 症例

- Angioseal 使用後に下肢虚血の悪化を来した1例  
井手 亨ほか（りんくう総合医療センター心臓血管外科） pp. 1-4
- 内腸骨動脈瘤により坐骨神経痛を生じた症例の治療経験  
安東 悟央ほか（函館中央病院心臓血管外科） pp. 5-8
- 重症下肢虚血に対する下肢動脈バイパス術後、2D Perfusion Angiography を用いて末梢血流評価を行った1例  
米山 文弥ほか（筑波メディカルセンター病院心臓血管外科） pp. 9-12
- 胸部大動脈4腔解離の1例  
大山 翔吾ほか（中通総合病院心臓血管外科） pp. 41-44
- 上腸間膜動脈閉塞症による腸管虚血に対して外腸骨動脈—上腸間膜動脈バイパス術を施行した一例  
池田 脩太ほか（JA 愛知厚生連豊田厚生病院外科） pp. 65-69

- 対側大腿動脈を inflow とした long distal bypass の1例  
福山 貴大ほか (長野松代総合病院心臓血管外科)  
pp. 71-75
- 胸部遠位弓部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術施行時に逆行性上行大動脈解離を合併した一例  
白石 達也ほか (公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院心臓センター循環器内科) pp. 77-81

## 血管外科手術アニュアルレポート2011年

- 血管外科手術アニュアルレポート2011年  
日本血管外科学会データベース管理運営委員会,  
NCD 血管外科データ分析チーム pp. 45-64

## No. 2

### 総説

- IgG 4 関連動脈疾患  
笠島 史成ほか (独立行政法人国立病院機構金沢医療センター心臓血管外科) pp. 129-134

### 症例

- 解離性腹部大動脈瘤の EVAR 治療において対側 Leg を偽腔経路で留置した症例  
谷島 義章ほか (松本協立病院心臓血管外科) pp. 91-94
- 高度脳虚血症状を伴った血管ペーチェット病に対する二期的血管内治療が奏功した1例  
原 正幸ほか (東京慈恵会医科大学外科学講座血管外科) pp. 95-101
- Najuta プロトタイプモデルによる遠位弓部大動脈瘤治療後の開窓部エンドリークに対し VALIANT Captivia の内挿が有効であった一例  
深田 穰治ほか (小樽市立病院心臓血管外科) pp. 103-107
- Typell エンドリーク予防を目的とした瘤内への Aorta Extender 留置  
手塚 雅博ほか (埼玉県立循環器・呼吸器病センター血管外科) pp. 109-112
- 肺血栓塞栓症を合併した膝窩静脈静脈性血管瘤の1例  
稗田 哲也ほか (王子総合病院心臓血管外科) pp. 113-116
- 股関節由来のガングリオンによる左大腿動脈閉塞を呈し

### た症例

- 矢田 真希ほか (三重県立総合医療センター心臓血管外科) pp. 117-120

- 腹部大動脈ステントグラフト内挿術後に椎体破壊を伴った Chronic Contained Rupture を来した1例  
齋藤 直毅ほか (福井県立病院心臓血管外科) pp. 121-124

- 大腿骨頸部骨折半年後に明らかとなった大腿深動脈仮性動脈瘤の1手術例  
山口 高広ほか (河内総合病院心臓血管外科) pp. 125-127

- 浅大腿静脈グラフトを用いた膝窩動脈瘤手術の一例  
棟方 護ほか (青森労災病院心臓血管外科) pp. 135-138

- 腹部大動脈瘤人工血管置換術後に発症した中結腸動脈破裂の1例  
森嶋 素子ほか (日本医科大学付属病院心臓血管外科) pp. 139-142

- 腸腰筋膿瘍に合併し、急速拡大した感染性腹部大動脈瘤に対し腸腰筋膿瘍ドレナージと EVAR が奏功した1例  
服部 将士ほか (長野医療生活協同組合長野中央病院心臓血管外科) pp. 145-148

### 学会開催報告

- 第9回日独血管外科学会を主催して  
末田 泰二郎 (広島大学大学院医歯薬保健学研究科・外科学) pp. 143-144

## No. 3

### 症例

- 遅発性 type IIIb endoleak の2例  
小林 卓馬ほか (京都岡本記念病院心臓血管外科) pp. 149-152
- 本態性血小板血症を合併した重症下肢虚血に対する Distal Bypass 術の一例  
吉村 幸祐ほか (JA 広島総合病院心臓血管外科) pp. 153-156
- 総腸骨動脈瘤静脈穿破に対し EVAR を施行した1例  
田中 陽介ほか (一般財団法人住友病院心臓血管外科) pp. 157-160



編集 日本血管外科学会 広報委員会

発行 特定非営利活動法人 日本血管外科学会

〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル4F

公益財団法人 日本心臓財団内

TEL: 03-5989-0991 E-mail: jsvs@jhf.or.jp <http://www.jsvs.org/ja/>

制作 株式会社国際文献社